

第 25 回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会会議要旨

日時 平成 27 年 10 月 7 日（水）9：00～10：15

場所 跡見学園女子大学文京キャンパス

出席者：中根副委員長、安島氏（鎌倉市観光基本計画推進委員会委員長）

事務局：小澤担当課長、尾崎係長

傍聴者：なし

議事の概要 1 議題

(1) 鎌倉市観光基本計画推進委員会への申し送りについて

2 その他

1 議題

(1) 鎌倉市観光基本計画推進委員会への申し送りについて

第 2 期鎌倉市観光基本計画の進捗状況をチェックする鎌倉市観光基本計画進行管理委員会から第 3 期鎌倉市観光基本計画を策定する鎌倉市観光基本計画推進委員会へ申し送りを行うため、進行管理委員会を代表して中根副委員長（古谷委員長の代理）から安島氏（鎌倉市観光基本計画推進委員会委員長）へ鎌倉市の観光事情〔平成 27 年度版〕を基に、第 2 期鎌倉市観光基本計画の総評と次期観光基本計画策定に向けた課題及び提言を行った。

（中根副委員長）

・鎌倉の観光においては、観光客の受入体制の整備から市民生活との両立まで、多岐にわたる課題が横たわっており、一朝一夕での解決は難しいことから、取組みの優先順位を意識しつつ、喫緊の課題については重点的に取り組むべきである。

・新たな計画をつくる上では、「住んでよし、訪れてよし」に繋がる見せ方をいかに行うかが大切である。

・「住んでよし」に繋がる市民の満足度の指標については、平成 26 年度からなくなってしまったとのことであったが、ここは重要な視点となるため、進行管理委員会として指摘し、何らかの対策を市に講じてもらうこととしている。また、満足度の指標は、アンケートの設問の表現によって回答に影響し、満足度に多少の変動が生じる可能性があることから、アンケートの見直しに伴って、設問には注意が必要である。

・「訪れてよし」を実現する上では、鎌倉観光の「質」とは何かを突き詰める必要がある。例えば、まちの外部資本による賑わいづくりに対して、地域密着型の賑わいづくりを目指して、地元事業者の参画と活動を推進していく方向性は一つの「質」の高まりであると考えられる。鎌倉では「鎌倉やさしい」の「農協連即売所（通称レンバイ）」のように、周囲の注目を集めている地場産品や販売活動もある。経験豊富な観光客は、地域に密着した観光に深い魅力を感じる事が潮流となってきた。また、観光客のモラルやマナーの徹底も、「質」の向上に向けて欠かせない要素である。

・今後の観光を考える上では、2020年（平成32年）東京オリンピック・パラリンピック夏季大会を見据えたインバウンドへの対応が重要となってくる。「量」より「質」を目指す鎌倉として、観光客数には拘らず、成熟した都市の側面を外国人に見せていくべきである。

・「質」の向上を考える上では、例えば従来のような観光資源の保全と継承に加えて、鎌倉の魅力と価値をより深く観光客に理解してもらえるように、創意工夫を凝らした展示を行ったり、発信をしたりしていく必要がある。

・定住にまでは繋がらなかったとしても、短期的な滞在が楽しめるような仕掛けを設けることは有意義である。例えば、ゲストハウスのような滞在施設が鎌倉でも注目を浴びてきており、鎌倉の街並みや雰囲気を見ると調和しやすいものだと考えられる。

（安島氏）

・インバウンドへの対応は非常に重要となってくる。外国人観光客をさばくテクニカルな課題については、受入基盤施設の整備を進めることで解決に近づけることができるが、鎌倉の何をどう見せるかは議論のあるところで、単純な答えはない。例えば、寺社を中心とした伝統的な観光だけでなく、これを更に進化させて、成熟した生活都市としての暮らしぶりや、そこに流れる時間、息づく習慣や営みに光を当てた観光に磨き上げられれば、円熟味が出て全国的なモデルにもなりうる。

・これまでの魅力や価値に拘らず、新しい魅力と価値を作り上げていくべき時期にきている。例えば、伝統的な歴史的遺産だけでなく、幕府時代における都市の姿や人々の生活の様子、明治時代における別荘文化や鎌倉文士といった、これまでの観光では十分に表現できていなかった、伝えきれていなかった側面に力を入れて、分かりやすく、知的好奇心を満たすような見せ方をしていくことが重要である。再度、世界遺産を目指すという上でも、そうした視点が必要となる。

・市民生活と観光振興の両立を図る上では、「住んでよし」が「訪れてよし」に支えられている側面も市民に理解してもらうべきである。観光客にとって過ごしやすいまちとは、インフラ基盤の面で市民にとっても過ごしやすいまちであるとともに、まちの賑わいが活気を呼び、心豊かな市民生活にも繋がる。

（事務局）

・市では、歴史的・文化的な新たな魅力や価値の発信という視点から、（仮称）歴史文化交流センターの整備に向けて取り組んでいるところである。この施設が整備された後の活用のあり方についても検討していきたい。

2 その他

特になし

以上